

本時のねらい

・複合語の特徴を理解することができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・タブレットを使うことで書く作業を軽減し、課題に取り組む意欲を高める。
・タブレットを操作することで、楽しみながら複合語の特徴を理解することができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・大型モニター ・タブレット PC
・Google Jamboard ・小学新国語辞典

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時の学習内容を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。 複合語の特徴について考えよう	・前時に学習した内容をJamboardのページを見ながら振り返る。
展開 (30分)	○長い複合語の意味や縮め方について考える。 ・いくつかの言葉を結びつけて一つの長い複合語になっていることから、短い言葉に戻して意味を考える。 ・長い複合語や、よく使われる複合語が短く縮める形があることを知る。(パーソナルコンピューター→パソコン など) ○元の言葉と音の高さが変わる複合語があることを知る。 ○2つの言葉が複合語になるとき、どのような言葉になるのかを考える。	・ペン機能で線を引いたり、丸をつけたりして視覚支援を行い、よりわかりやすいようにする。 ・指で操作することで、パズルをするような感覚で、学習に取り組むことができる。 ・書く作業を軽減するため、タブレットに文字を書き込むときは、長文にならないように配慮する。
まとめ (5分)	○本時の学習を振り返る。 ・本時の学習でわかったことや気づいたことを伝え合う	

1人1台端末を活用した活動の様子



言葉のカードを動かして、複合語を作っている場面



複合語になると濁点になる言葉をJamboardに書き込んでいる場面



大型モニターに映し出して、考えを確認している場面

児童生徒の反応や変容

・「言葉のカード」をパズルのように動かしながら、複合語を組み立て、どの言葉がペアになるのかを声に出して、楽しんで学習を進めていた。
・児童にとって身近ではない言葉と出合ったときには、周りの児童と一緒に言葉の意味を考えることができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・字を書いたり、読んだりすることに困難を抱える児童もいる。言語教材の単元では、始める前から抵抗を感じ、学習に意欲が下がってしまうことも多いが、タブレットを活用することで、学習にゲーム要素をもたせその困難さを軽減することができ、どの子も楽しみながら複合語を理解できるようになった。